

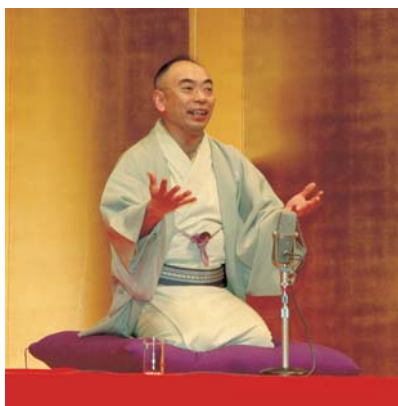
落語や寸劇で 男女共同参画について学ぶ

男女共同参画フォーラム in 松浦（県・市・同実行委員会主催）が3月4日、文化会館で開催されました。

県が推進する男女共同参画社会推進地域サポート事業の一環で開催されたもので、今回のテーマは「自分らしく輝いて～あなたとわたしの思いやり～」。

松浦少年少女合唱団がオープニングを務めた後、サークル「おばしゃま」が「男も女もつんのうでいこかい」と題して、手作りの寸劇を披露。

また、落語家の林家うん平氏が「もっとイキイキ女（ひと）と男（ひと）」と題して、女性の弟子を持ち、女性ならではの気配りに気づいたことなどのエピソードをユーモアを交えながら講演。その後の落語では会場中が笑いに包まれ、参加した約350人は男女共同参画について楽しく学びました。



その後の落語では会場中が笑いに包まれ、参加した約350人は男女共同参画について楽しく学びました。

中興化成工業の新工場完成

中興化成工業SC工場（本社東京、木曾節文社長）のしゅん工式が2月28日、松浦臨海5号団地（調川町）の同工場で行われました。

新工場では、自動車の側面衝突時に作動するエアバッグのコーティング加工を行います。

この日は、関係者約100人が出席。木曾社長が「松浦市がエアバッグの生産日本一となるよう、一日も早くフル稼働させたいです」とあいさつし、工場の完成を祝いました。

新工場は、床面積約4,700平方メートル。年間約450万袋の生産能力を持つコーティング設備を導入しています。また、3月5日から操業を始め、今後3年間で新規雇用約50人を予定しています。



演奏や遊戯などで お年寄りと交流

「平成18年度一人暮らしのお年寄り・高齢者との昼食会・今福町民音楽祭」（今福地区社会福祉協議会と今福公民館の共催）が2月23日、今福公民館で開催されました。

音楽などを通して世代間交流を深めようと、70歳以上の一人暮らしや80歳以上のお年寄りを招待して毎年開催しています。

音楽祭では、今福保育所の園児や今福小・中学校の児童・生徒、公民館利用者などが遊戯や合唱などを披露。今福町婦人団体連絡協議会の手作り弁当も振る舞われ、参加したお年寄り約100人は楽しいひとときを過ごしました。

松浦水産が 加工場建設に着手

養殖用飼料製造や冷凍冷蔵事業などを行う松浦水産（峯元統征社長）の新工場建設起工式が3月22日、調川町の水産加工団地内の建設予定地で行われました。

新工場は、加工場、製氷工場、倉庫からなり、加工場ではブリを3枚におろす「フィレ」、トラフグの皮をはぎ内臓をとる「身がき」を行い、主に関東・関西方面に出荷します。

式には、関係者約50人が出席。峯元社長が「松浦から食の安心・安全を消費者に届けたいです」とあいさつし、工事の安全を祈願しました。

新工場は今年9月末の完成、10月の操業を目指します。また、新規雇用10人を予定しています。



色とりどりのつばき咲く

第34回福島つばき祭りが3月3日と4日の2日間、福島武道館で開催されました。

福島つばき会と福島町観光協会の共催で毎年開催されています。

福島つばき会の会員が育てた、色とりどりのつばきの盆栽展示のほか、小・中学生のつばきを題材にした絵画や書などが展示され、会場を訪れた人の目を楽しませていました。

また、会場には、つばき苗の販売と園芸指導コーナーが設けられ、訪れた人は、つばきのつぎ木や手入れの方法などを熱心に聞いたり、苗を買い求めたりしていました。



保育園に猿回し

「薩摩の猿回し劇場」が3月7日、ほしか保育園（山口太子園長）を訪れ、猿回しが披露されました。

同保育園が、園児の思い出づくりと地域の交流の場を増やそうと依頼したものです。

この日は、園児や星鹿小の1年から3年の児童、地域住民など約200人が訪れ、雄猿のゴクウが輪抜けや階段芸でジャンプや逆立ちを披露すると、観客からは歓声が上がっていました。

また、3月8日は特別養護老人ホームいろは島荘でも、入所者・デイサービス通所者・養源保育所園児たちが猿回しを楽しみました（福島福祉会主催）。



ひな飾り作りに挑戦

ひな飾り作り体験（ハーブ研究会主催）が2月4日、11日、18日の3日間、蛙鼻公園内のハーブショップで行われました。

誰でも簡単にできる手作り体験として毎年開かれています。

紙粘土で作った人形型の芯に、着物となる色とりどりの布を張り、布の端を中に埋め込みながら順に重ね合わせてひな人形を製作。そのほか、びょうぶやぼんぼり、台座を作り、世界に一つだけのひな飾りを完成させていました。

参加した堤登志子さん（今福・人柱）は「楽しみながら作ることができました。出来上がりに満足しています」と話していました。



家畜の霊を供養

と畜された家畜の霊を供養し、畜産農家の安全を祈願する「畜魂祭」が3月6日、ながさき西海松浦営農経済センター構内の畜魂碑前で開催されました。

ながさき西海農業協同組合（松本英達組合長）の主催で毎年開かれています。

この日は、畜産農家や農協関係者約80人が出席。宇瀬留一専務理事が「肉の取引価格は高価格で推移しています。今後、繁殖牛1万2千頭計画を推し進め、畜産の振興を図るとともに、家畜のめい福を祈りたいと思います」とあいさつし、家畜の霊を供養しました。